

東京東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会
東京支部

東京東雲会会報 第6号
令和5年5月発行

編集・発行：東京東雲会
題字：奥村 浩治(山脈22回)



令和4年 東京東雲会総会&懇親会 集合写真

アフターコロナの同窓会開催を祝いましょう

東京東雲会会長 林田 英樹(山脈12回)



3年以上にわたり世界中を苦しめたコロナ禍の時代も、ようやく「アフターコロナ」に移行してきました。3月11日に開催した幹事会で、東京東雲会の今年の総会を恒例に従い7月1日(土)12時から法曹会館で開催することを決定しました。悩ましかった日々の思い出を肴にして、平穏な日常が帰ってきたことを共にお祝い致しましょう。

昨年の9月7日にとりぎん文化会館梨花ホールで開催された母校の創立百周年記念式典では、長らく東京東雲会の会長として同窓会活動にご貢献いただいた鈴木誠名誉会長に中島靖雄校長から感謝状が贈呈されました。この機会に、東京東雲会としても改めて心からの感謝の意を表したいと思えます。

お子様など家族連れでの参加も歓迎ですので、母校が創立百一年の新しい門出を迎えた今年、東京東雲会総会・懇親会が多くの仲間の参加を得て、楽しい会になりますようご協力をお願いいたします。





東京東雲会 令和4年度総会&懇親会

令和4年度総会が、恒例の7月第1土曜日・7月2日、3年ぶりに開催されました。5月末から9月末へかけての、コロナ感染拡大の端境期の小康を保っていた時期での開催となり、感染対策に万全を期して食事時の黙食・会話時のマスク着用を参会された皆様をお願いしての開催となりました。

冒頭、出席者全員でマスク着用のまま校歌を斉唱、久しぶりの校歌に出席者の顔も自然と綻び総会が開会、林田英樹東京東雲会長から「3年ぶりの開催となり、楽しみにしておられた方も多いのでは。母校の百周年の年にこうして開催出来たこと何よりうれしく思う。百周年の記念事業にも協力していきたい」と挨拶を頂きました。

次いで会計報告等の議事後、中島校長から「百周年を迎え式典を9月7日に開催すること、この式典で鈴木名誉会長へ感謝状を贈呈すること、コロナ禍なので人数を制限して実施することが伝えられ、現在の母校の様子など」をお話いただきました。特に「コロナ禍で頑張る学生」のお話には、感慨を覚えました。

その後は、渡邊純子さん(山脈62)のホルンの演奏、ク

ラシックの楽曲から歌謡曲まで演奏され、ホルンの柔らかな音色に聞き入り、途中演奏をバックに歌われた方もあり、大いに盛り上がりました。

そして、鈴木誠名誉会長の音頭で乾杯、懇親会がスタート。鳥取からお土産に頂いた竹輪やスイカなどを肴に、また「若手役員による百周年を振り返るスライド上映」を観つつ旧交を温めあう、いつもの総会が戻ってきた様子でした。最後は恒例の『お楽しみ福引大会』で締めくくり、アットホームな東京東雲会総会もフィナーレ。明年7月1日(土)の再会を期して散会となりました。

柏葉25回から山脈62回の会員、滝波東雲会事務局長、京阪神東雲会岡田会長、鳥取県東京本部堀田本部長等の来賓を含め55名の出席者でした。コロナ禍ではありましたが、多くの参会者から「開催されてよかった」と受け止められ、またお子様連れの参加者もあり、子育て世代の参加・家族連れの参加等、今後の『東京東雲会の総会の在り方・アフターコロナを見据えての開催方法等』について考えさせられた総会でした。

幹事長 奥田真三(山脈23回)



今年の総会& 懇親会に参加して

(敬称略：卒業年順)

●新型コロナ禍で中止された東京東雲会総会・懇親会が3年ぶりに母校百周年記念として再開され、再会を楽しみに参加しました。参加者名簿の一番が私で柏葉も一人だけ、振り返ってみれば、二中から77年・東高から74年・私は90歳になり、大地震や大火災の狭間を鳥取で過ごした青春時代の6年間は遠い昔の事、月日の経つのは早いもので正に鳥兎忽忽の感があります。



今は20年以上一人暮らし、家事は多忙で面倒、癒しは二中で始めて東高・大学・社会人と続けてきた軟式庭球(ソフトテニス)と囲碁が生き甲斐となっています。お陰様で大過なく暮らしていますが、東高の庭球部の仲間もほとんど他界、残念ですが、私はできる限りテニスを続けるつもりです。世代は変わっても二中の建学の精神を守り東京東雲会の末永い継続発展を願っています。

(山脈3回/柏葉25回 渡邊 達也)

●毎年、総会・懇親会のご案内をいただいているのですが、今回は百周年ということでしたので、〇十年振りに思いきって参加しました。若い人は若い人なりに、年配の人は年配の人なりに、それぞれの道を歩んでおられるお話を伺うことができて、それが一番の収穫でした。鳥取東高卒業という、共通の根っこから、多種多様な人生が花開いているのは、何と素晴らしいことかと思いました。今回、私の同期は他にいませんでしたが、同期会を隔年で開いていますので、次回は声をかけてみたいと思っています。



話は変わりますが、当日会場で、「鳥取大地震犠牲者の慰霊碑(記念碑) 建立募金」のチラシをいただきました。地震の2週間後に生まれた私は、小さい時から地震の話をよく聞かされました。家が傾いて住めなくなったので、止む無く円通寺の本家に仮住まいして、そこで生まれたとのことでした。この地震の記憶を、是非残していただきたいと思います。

(山脈13回 山本 宏義)

●東京東雲会の総会&懇親会では、事務局の皆様が大変お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。その時の思い出を2つ述べます。



1つ目は、第2部懇親の集いで「お楽しみ福引大会」があり、日ごろ抽選の賞品に縁のない私もパフィーファン(ハンディな顔用ファン)を頂きました。今年はさらに上位の賞品をゲットしたいと思います。

2つ目は、私が東高を卒業して50年になり、年齢も関係しているかもしれませんが過去を振り返る機会が多くなっていると感じています。当時の東高を思い出す時、東京東雲会の同年代の仲間との会話が引き金となって記憶がつながり、新たに思い出されることも多いです。また、東高の校長先生の最新の情報も自分の在学時と比較して当時を振り返る良い機会となりました。次回ももっと思い出を広げたいと思います。

そして、今後の東京東雲会の益々のご盛会、鳥取東高校のご発展、会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

(山脈23回 河田 博之)

●以前から東京東雲会のことは同級生から聞いており、いつか参加してみたいと思っていたところコロナが蔓延し、仕事やプライベートについて振り返る時間を与えられたような気がしません。改めて時間は有限であり「いつか〇〇できたら…」と思っていたとしても実現できない可能性もあることに気づき、



今回が母校百周年記念総会であることも後押しとなり出席させていただきました。

長く東京で仕事をしていても鳥取出身の方に滅多に会う機会がない中、総会に集まれた方は全員東高出身なので同級生含め、様々な世代の方とお話することが驚きであり、本当に参加して良かったです。東雲会は世代も違うとはいえ、みな東高が、そして鳥取が大好きな方の集まりだと思いますので、益々の発展を祈ると共に自分と同じようにいつか参加しようと思っている方は早く参加すべきです(笑)

今年も通学路沿いの満開の桜並木を思い浮かべつつ、東京東雲会総会への参加を楽しみにしております。(山脈45回 川瀬 賢作)

●いつからか東京東雲会に参加させていただいております。同年代が少ない中いつも快く迎え入れてくださり感謝しています。普段の生活をしていると高校時代を思い出すこともほとんどないですが、参加すると不思議と通学路や、廊下の雰囲気、入学した時の教室など自然と思い出します。



コロナ前の東京東雲会では、高校時代に英語を教えてくださいましていた尾室先生が現校長として最後の参加ということで感慨深かったのですが、中島校長は任期3年目にして初参加というのもコロナの影響を目の当たりにした気がしました。校長先生のお話は現在の東高の様子を聞くことができるので毎回楽しみです。私の中では遠い思い出ですが、現在も後輩がああ校舎で勉強や部活に打ち込んでるんだな、と実感しています。修学旅行がコロナの影響でなくなったのが可哀想だったとお話がありましたが、私たちの在学中は「受験にすすめ〜!」で、そもそもなかったので、いつの間にできたの!?!と驚いたのが印象的でした(笑)

(山脈51回 斎藤 若菜)

●友人に「鳥取のちくわがたくさん食べられるから」と誘われ、昨年、東京東雲会に参加させていただきました。受付に着いて早々、友人が参加費を忘れたことに気づき大慌てする場面があり、おかげで緊張もかなりほぐれました。人見知りのせいで、あまり多くの方々とお話しできませんでしたが、東京で活躍する先輩や同世代のみなさんと交流でき、また、久しぶりに校歌も歌い、楽しいひとときでした。東京に住んで約13年になりますが、このような会に参加するのは初めてだったので、とても新鮮でした。



私は東京の知り合いに「鳥取出身の人って初めて会った!」と言われることがあります。皆さんのなかにも同じような経験がある人がいらっしゃるかと思います。東京に住んでいる鳥取県鳥取市、それも鳥取東高出身者となると、随分とレアキャラではないでしょうか。そんなレアキャラたちの集う会、東京東雲会総会&懇親会が今後も末長く続いていくことを願っております。

(山脈51回 加藤 心)

●コロナ禍前から妊娠・出産のため、東京東雲会・総会に参加できずにいましたが、3年振りに開催されるとのことで、4歳になったばかりの息子と参加致しました。当日は、創立百周年を迎える母校の校歌を息子と一緒に歌えたことが感慨深く、同級生数名とも会え、高校時代は話したことがなかった同級生とも、すぐに打ち解けることができました。息子は、大好きな豆腐ちくわをご馳走になり、じゃんけんゲームでは覚えてたのじゃんけんができて大興奮でした。



子連れでの参加に不安もありましたが、諸先輩方が息子に対して温かく接して下さり、歓迎していただけたことがとても嬉しかったです。同級生が子連れで参加していたこともあり、子ども同士も仲良くなっていました。オープンな交流や雰囲気に東高の校風を思い出し、心が温かくなりました。

鳥取の良さ、東高の思い出に浸れる東雲会。また息子と参加したいと思っています。(山脈54回 西原 真美)



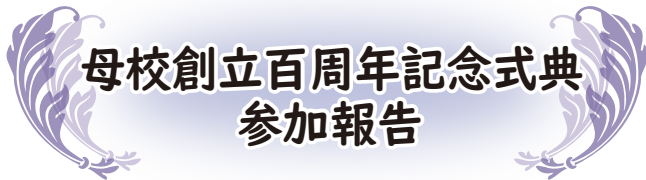
欠席者からの便り

～総会出欠ハガキ通信欄より～

(敬称略：卒業年順)

●最近身体的にあまり外出できなく欠席しますが、東京東雲会の益々の発展を願っています。(山脈3回 西川 研次郎)
 ●数え年で米寿を迎えました。元気にしています。(山脈5回 横山 勇) ●87歳! 元気に千葉で頑張っています。盛会を祈ります。(山脈5回 中川 侖) ●平成5～6年の2年間鳥取県東京本部勤務時鈴木誠前会長(同期生)始め東京東雲会の皆さまにお世話になりました。初めての東京暮らしの中お陰さまで大変心強く又楽しく過ごさせていただき忘れられない思い出となりました。以降も会報はじめ東京からの便りを楽しみにしています。(山脈5回 土井 康稔) ●先日新橋の鳥取アンテナショップの2階入口に「鳥東高ノート」を見つけ懐かしく読みました。(山脈7回 中島 一郎) ●85歳になりました。足が不自由になり残念ながら欠席しますが、同期の皆さまによろしく!(山脈7回 杉本 秀一) ●地域との繋がりで忙しくしています。麻雀グループや森の手入れ等、人と接するのは面白い!(山脈8回 田川 凱士) ●附中時代バレーボール部で活躍した林田君が今東京東雲会の会長とし

て活躍されているのを嬉しく思います。ガンバッテ下さい。(山脈11回 手塚 徹) ●現在も現役開業医です。内科、精神科、神経内科、心療内科。(山脈13回 小林 永子) ●先日3年振りにゴルフをやりました。手引きカートでのラウンドで少し心配でしたが無事に回ることができ安心しました。(山脈14回 山本 仁実) ●学校法人武蔵野音楽学園を6月末付(令和4年)で退職します。(山脈17回 林 孝治) ●妻、ゴールデン(ホワイト、メス)と共に元気に毎日6～7キロ伊豆内を歩いています。(山脈22回 森山 毅) ●創立百周年おめでとうございます。少子化傾向の今日ですが東高の更なる発展を願い、歴史が繋がるよう祈っています。(山脈23回 日佐戸 厚子) ●5月の連休に2年4ヶ月振りに帰省して親戚への挨拶、鳥取砂丘、浦富海岸などに行き、会いたい人に会い、行きたいところに行くはやはり良いです。久しぶりに写真をたくさん撮れました。(山脈25回 村上 博明) ●ご案内ありがとうございます。3年振りの総会開催心から嬉しく会報を拝見させていただきました。残念ながら参加できませんが皆さまによろしくお伝え下さい。(山脈45回 故島 るみ子) ●大変申し訳ありません!是非とも出席させていただきたかったのですが、どうしても当日仕事になってしまい…次回は是非とも!(山脈46回 浜崎 慎治)



母校創立百周年記念式典 参加報告

令和4年9月7日(水)、母校の創立百周年記念式典が開催され、東京東雲会から鈴木誠名誉会長、林田英樹会長に同行し出席させて頂きましたので報告致します。

前日からの悪天候も母校の百周年を祝うように快晴となった空のもと、とりぎん文化会館梨花ホールに於いて、厳かに執り行われました。最初は、「情熱」「百年」と題して、書道女子による演技 揮毫パフォーマンスが披露されました。

私たちの学舎は情熱から生まれた
 百年の時を経ても揺るがぬ学びへの熱き想い
 寄り添い歩む姿は今も変わらない
 心つなぐ
 東高百年の軌跡を今ここに感じて
 新たなステージに立つ
 時代を担うのはわたしたちだ

以上の揮毫は、母校創立から脈々と流れる“東高スピリッツ”を、継承し未来へ繋げるとの現役生徒からのメッセージであるように思われ、感銘を受けました。

式典は、国歌斉唱を国際的に著名なバリトン歌手谷口伸さん(山38)が厳かに唄い上げ、次いで中島靖雄校長が式辞を述べられ、平井伸治鳥取県知事、深沢義彦鳥取市長から祝辞があり、石丸文男同窓会長、網谷憲 PTA会長の挨拶、生徒代表の言葉と続き、そして功労者に対し感謝状贈呈。東京東雲会鈴木名誉会長へも長年の多大な貢献に対し、感謝状が手渡されました。最後に現役の生徒による校歌斉唱があり式典の部が終了。

続いて記念演奏会が催され、第1部では棚橋恭子さん(ヴァイオリン)、中嶋奇恵さん(チェロ)、竹田詩織さん(ヴァイオリン)



の同窓生3名に、田尻順さん(ヴァイオリン・東京交響楽団アシスタントコンサートマスター)を加えて弦楽四重奏の演奏がありました。モーツァルト作曲の「弦楽四重奏のためのディヴェルメント」を始め、アンコールを含め全5曲が披露されました。百周年のために結成されたストリングカルテットの華麗な演奏に聴き入りました。

次に、放送部作成の百年の歴史を振り返るアニメ映像の上映があり、演奏会第2部は先の3名の演奏家と吹奏楽部による記念演奏。チェロ・ヴィオラ・ヴァイオリンそれぞれと吹奏楽部とのコラボ演奏とトーク、いずれも懐かしく楽しい楽曲で、東高らしいアットホームな演奏でした。

創立記念日(6月23日)の学校での創立行事から始まり、東高祭と同時開催となった今回の式典で、一連の百周年のイベントは終了となりました。

招待者は約100名に制限され祝賀会も延期となるなど、コロナ禍により諸種制約がある中での開催となってしまったのは残念ではありますが、「現役の生徒の皆さんから『東高の良き伝統・スピリッツを引き継いで行く』との力強いメッセージが発せられたこと」を報告させて頂き、総会時に式典の映像をご覧頂くことを計画していることをお伝えし、皆様への報告といたします。

東京東雲会 幹事長 奥田 真三(山脈23回)

母校百周年行事で表彰を受けて

東京東雲会名誉会長 鈴木 誠
(山脈5回)



昨年9月7日に約8年振りに鳥取に帰省し、母校東高の百周年記念式典に出席させていただきました。その中で母校から感謝状をいただき甚だ恐縮しております。私は昭和29年卒業の山脈5回生ですが、中央大学を卒業後弁護士となり東京で事務所を開設したことで、それまで先輩の浜本清海先生(柏葉7回)が担当され

ていた「東京東雲会」の事務を引き継ぎ、同期の中島睦夫君や、岸本郁男君と一緒に約50年間会員名簿の整理、郵送の宛名書き、総会会場の準備などを続けてまいりました。またその後、現会長林田英樹会長(山12)に引き継ぐまで長年会長を勤めさせていただきました。今回このことが母校に評価していただき表彰されたものと思慮しています。この間総会には、毎年校長先生が遠路上京していただいて母校東高の現状報告をしていただきました。そして校歌や故郷(ふるさと)を合唱して、なつかしい思い出にひたることができました。今後の母校の更なる発展を祈念すると共に、式典で多くの先生方、現役生徒さんとお会いしましたが、この方々の更なるご発展を望んで止みません。



創立百周年を振り返って

東雲会事務局長 滝波 和宏
(山脈24回)



「同窓会(柏葉会と山脈会)合併は五年以上の日時をついやして、やっと実現された。その間の紆余曲折、合併の問題点をふりかえってみたい。」という文で始まる「東雲会」というタイトルの故倉恒貞夫先生による記述が、創立五十周年記念誌(480ページ)にあります。それによると、昭和24年4月新制鳥取東高が発足し、昭和27年12月に「徳田記念館」が落成した時点においても、同窓会は柏葉会(二中)と山脈会(鳥東高)に分かれたままであり、昭和29年の同窓会総会で合併の話が出されたが、反対が強く実現しなかったという記述があります。その後、東京支部等からも多数の意見が寄せられ、柏葉同窓会、山脈同窓会、学校の間で種々の会合を重ねて、昭和33年10月19日に柏葉・山脈両会で臨時総会を行い、「同窓会東

雲会」として発足するに至ったとあります。学校創立百周年の歩みの陰で、同窓会において前述のような「ドラマ」があったことを知り、改めて同窓会の先輩方が困難な状況乗り越えて現在の東雲会を築いてこられたことに感謝と敬意を表したいと思います。

コロナ禍の厳しい状況の下、2022年(令和4年)9月7日に創立百周年記念式典が「東高祭」にあわせて挙行されました。徳田平市翁のご親族、鳥取県知事、鳥取市長、各同窓会支部等からのご来賓に参列していただき、生徒、教職員共に盛大に祝賀行事を執り行いました。なかでも、同窓生による「記念コンサート」、吹奏楽部とのコラボ演奏は記念式典を大いに盛り上げてくれました。また、「東雲基金」「トレーニングジムのリニューアル」「百周年記念誌発刊」等において、同窓生の皆様方の絶大なるご支援、ご協力を賜りました。衷心より厚く御礼申し上げます。

末筆になりましたが、東京東雲会名誉会長 鈴木誠様におかれましては、記念式典において学校長より感謝状を授与させていただきましたが、改めて長年に渡る東京東雲会並びに母校同窓会の発展にご尽力いただきましたことに心より感謝申し上げます。東京東雲会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

古代東高史

倉恒 貞夫(山脈3回)

第5回 創立当時の東高祭

今年第53回東高祭が、祝創立八十周年記念と銘打って、7月12日～14日の3日間行われました。近頃の東高祭は体育大会も含めて、3日間で行われるようです。

東高の日程は昭和50年ごろには、体育祭も含めて二日半。(第1日目の午前中は授業をして正午開会式)というスタイルでした。日程の長さにはいろいろ紆余曲折もあったようです。しかし、東高祭はどんな日程でもその時代の生徒の情熱の盛り上がりであり、青春の花開き、そして生命が煌いていた眩いばかりの一刻ではなかったでしょうか。

それでは、創立当時の東高祭を思い出してみたいと思います。—こんなことができたのか！

昭和24年(1949年)『第一回秋季大運動会は、10月9日(日)第二グラウンドで開かれた。生徒を主体とした運動会準備委員会によって、準備、練習に日を重ねてきたが、天候が悪化、ついに午後1時半中止された。』『鳥取東高創立記念行事としての文化祭は、生徒を主体として合同協議会で決定した。一週間ぐらいにまとめて、校舎別にやるのが、9月の職員会議で決められていた。』

第一回東高祭日程 <東高校記念文化祭>

- 11月4日 学術発表会(第一校舎講堂)
- 11月5日 演劇、舞踏発表会(//)
- 11月6日 弁論大会、音楽会(第二校舎)
- この期間中 中展覧会(第一、二校舎)

『初年度のことで若干の準備不十分な点はまぬかれ得ず、次年度に於いて最も盛大となった。』(創立五十周年記念誌より)

昭和25年(1950年)第二回東高祭日程

- 10月8日 大運動会 於工業科グラウンド
- 10月9日 祝賀提灯行列
- 10月10日 音楽会 於工業科講堂
- 10月11日 弁論大会、研究発表会、映画 於普通科講堂
- 10月12日 演劇発表会 於工業科講堂
- 10月13日 コート開き庭球・排球大会 於普通科コート
拳闘試合 於工業科講堂
- 10月10日～12日 文化祭展覧会 於工業科校舎
- 12月上旬 農業祭 於農業科校舎
全期間中バザーあり。

昭和25年10月8日付の東高学園新聞(10号)をどういうわけか小生が持っているのだからこれを参考にして諸行事を思い出しながら紹介してみます。

10月7日 運動会前日。
『宣伝隊は新装なったトラックに乗って7日午後3時、楽隊のリズムに合わせながら市中行進し新聞部特報のピラ、又学



校当局の宣伝ピラをまき大声で口々に叫びながらその宣伝につとめた。続いて午後4時から第二回の宣伝隊を繰り出し校歌を唱いながらトラックで市内を廻りピラをまきその宣伝につとめた。』(東高学園新聞記事より)

10月8日 大運動会、於工業科グラウンド。

国道の入口には、門をかまえ、杉の葉で飾った緑門が作られた。校舎のあちこちには、大狸、3米以上の大キリン、山羊など次々に現れ、(我々2Bの大虎は普通科から皆でかついで運びこみました。)会場には満艦飾の小旗が思い思いのものが準備され張られていました。

『愈々当日を迎えるや運動会気分はいやが上にも場内に漲り、その歓声は遠く久松山麓にこだました。昔を偲ぶ大井川の渡し競争、器械体操、吉田首相、山田のパーチャン出現の似顔絵、二重円の平和音頭、集団体操、等々。実に五十に余る体育絵巻は全校(普通科、工業科、農業科)を挙げての喜びと楽しみの交響楽の中に滞りなく遂行され会場狭しと集う幾千人に恐らくそれぞれの角度より深き印象と感銘を与えたことと思う。』(運動会を顧みて、体育教官室。「提携」創刊号より)

運動会終了後は自然発生的にファイヤーストームがそれぞれの張子の下で行われました。

<天をこがさんばかりの大火を燃やし>—張子だけでなく、かなりの校庭周辺のゴミを燃やしてあたりをきれいにしたようです。フォークダンスの練習などありませんでしたから、ただ皆で火を囲み、デカンショ節、ノエ節、応援歌、などをくり返し歌ったようです。

担任のM先生は『あんたらあは、酒も飲まずにようやんさるなあ!!』運動会には、M先生の奥さん、小さい子供さんお二人とも一緒に、ハリコの虎の前で記念写真をとっています。女物の着物を着たりタスキを掛けたりしている級友もいます。だんだん盛り上がり来て歌ったり踊ったり先生方を胴上げしてまわったり運動会の夜の興奮はなかなかつきたりませんでした。



10月9日 東高祭、前夜祭、祝賀提灯行列。

『工業科、機械科の誇りとしている自動車を繰り出して、宣伝に当たり10時、1時、4時の三回に渡って仮装した人々を多数のせ日本海新聞特別奉仕の宣伝ピラをまき、男生徒のフラダンスや、女装チャップリン、寛一お宮の外に多数くり出して大々的宣伝にあたる』

『盛大に開かれる東高祭を少しでも多くの人々に見てもらおう為渉外宣伝係では本校所有のトラック二台を仮飯(花電車)市中を宣伝して回ることに決定しその威力が大いに期待される。』

走るぞトラック花自動車

『東高祭が目前にせまり両車共出品すべく先生、生徒は土・日曜も出校し徹夜の日々など、夜風が身にしむ月光りの下での修理も続けられている車はフォードの1932年型四気筒であ

るが乗り心地は上々とのことだ。第二車はニッサン製 2600。1940 年型六気筒で俗にドンビキ型と称され、戦時中大活躍したもので…。』

『夜は提灯行列。先頭はトラック、楽隊について、全校生徒の提灯行列。男生徒、女生徒共ローソクを三本くらい持って未広通り、駅前、智頭街道、若桜街道、大工町通りなどを練り歩いた』

10月10日 音楽会、工業科校舎講堂

音楽部(七十余名)の大合唱団が主で、モーツァルトのグロリア、オペラローレライより抜粋、その他、3時間の合唱。その他のルームの合唱団の発表。

10月11日

○弁論大会 参加人数二十数名。これは東部地区大会出場をかけての一戦。大会中に放送式討論会。「個性と社会生活」がテーマ。9～12時の3時間。一人7分。

○研究発表 人文科学部門「意志論」、自然科学部門「サビの研究」「空気中の微生物の培養」「日本海新聞活字及び自作品の研究について」など。

○映画上映 映画部のCIE映画上映。普通科講堂。

10月12日 東高祭、4日目。

○演劇発表会 於工業科講堂。

「竜の落とし子」普通科2A。原作真船豊。演出郡孝幸(1時間) / 「ヴィーナス」普通科2B。演出塩川彰。主演倉恒貞夫(1時間) / 「ポール氏とマリー嬢」普通科3C。原作3C / 演劇部「マクベス」シェークスピア原作。四大悲劇の一つ(2時間) / 「蘇る面影」演出菊川(1時間半) / ダンス「青きドナウ」(6～7分) / 「世界は一つ」世界平和・世界統合理念を描いたもの(20分) / 「醜きアヒル」物語をダンス化したもの(15～20分)以上ダンス部。

演劇部はシェークスピアものを次々に手がけ発表し、県の演劇発表会でも常に上位を占めていた。



10月13日 東高祭、第5日目。コート開き、庭球・排球大会、普通科コート。

○拳闘大会。工業科講堂。当時は生徒間にも拳闘が盛んであって、厚手の兵隊用の手袋などを利用して休憩時間などボクシングシャドウなどもやっていた。普通科の生徒控所にもリングが作られたり、ボクシング部も大活躍で、モスキート級の選手権を全国大会で取ってきたといわれていた。

10月10日～12日 文化祭展覧会(11クラブで、その外映画部上映会のCIE映画上映会が11日に行われた)3日間、普通科校舎。

○社研展。社会研究部。古墳のパノラマ、出土品の展示、統計教室(生徒の学校生活の統計(読書、思想、小遣いなど)、鳥取市在住人口の移動状態など)。

○新聞展 新聞発行までの行程。日本海新聞社、日の丸印刷等の協力による種々の実物の展示。

○工芸展 山、川、大都会のパノラマを自在にかけ廻る種々の電車、電気自動車。

○美術展 出展数80点、洋画12点。日本画7点、水彩画60点。一般作品とクラブ員の作品。

○短歌展 部員の短歌作品を一人五首あて展示。鳥取市内の短歌グループよりの代表歌人3人に出品してもらおう。中央有名歌人の短冊を展示。有名歌集多数展示。

○書道展 出品は本校部員は勿論、連盟を通じて西高、家政高、八頭高、市内四中学にも。

○写真展 部として生まれて間もないクラブでクラブ員も少ないが作品30点。

○華道展 ただ単に花を活けるだけを目的とするのではなく、若い人達にピッタリ合った意義のある作品を出品する。

○図書展 10月9日より6日間図書室で行う。特に製本の順序について解り易く展示。

○茶道展 腕自慢の茶道部ではこの機会にと全神経をただ「お茶」に集中させている。

○園芸部 園芸クラブは当季節の花ダリアを中心とした展覧会で近郊で集められ得るダリア品種を網羅して生けるダリア図鑑ともいべきものを示す。会場は北校舎東階段下の音楽室

○映画展 世論調査を基準に学生と映画の関係をグラフで示すなど。

展示会場は、全校の教室を使用。机、椅子を片付けていった。新聞、美術など一つのクラブで教室を2から3も使うものがあつた。

学校祭準備には、当時五日制であつたから(本校は昭和31年まで五日制であつた)土、日はもちろん、時には早朝、あるいは夜遅くまで、時には学校に泊まって作業をした。

展示会の二、三日前ごろからは、女子生徒もかなり学校に泊まった。茶道部、華道部の女子の生徒が畳のある部屋に泊まっていて、そこへ、生物の標本のガイコツを持って、おどかしに侵入した男子数名が、女性軍に迎え撃たれて、ほうほうの体で逃げ出したこともあつた。又、夜泊まって仕事をすする生徒のために全校に呼びかけてサツマイモを持って来させ、—それが玄關を入ったところに、ムシロをひろげて置いてあり、勝手に自由にもらって行ってバケツで火を焚いて、焼いて夜食にした。—木造の校舎の中で、バケツで火を焚いたのだから?! これらは、生徒各自、クラブ又は生徒会各自の責任で、先生方の巡視だとか、干渉だとかあつたおぼえがない。

東高祭の企画、立案、実行などは、三校舎全体の生徒会、又は、各校舎の自治会にまかせられ、その責任で行った感じであつた。ほとんど生徒会主体という感じで行動していたようである。

東高祭バザー

10月8日より東高祭バザー。これが自治会運営資金獲得を目指して行われる。昨年は、各クラブ資金カンパのために監理したが、自治会の名で統合開催することになった。

家庭科クラブの女生徒50名が従事。運動会当日は校庭に三ヶ所売店を開き、講堂の半分に紅白の幕を張って食堂部分と調理部分とした。バザー券は一枚20円。うどん、ライスカレー、コーヒー(ケーキ付)、その他ラムネ、アメ、菓子、パンなど。

他の期間中は校舎毎に食堂を置き(普通科は9ルーム)、近くに売店を設けた。

普通科グラウンドの庭球、排球コートの整地はこの後も続き、生徒の手で土入れ、ならしなどを続けられたが、次年度東高祭近く9月10日、1年D組が松保村で土取り作業中土砂崩れが発生、生徒三名が生き埋めとなり、うち一名死亡の大事が起こった。このため、哀悼の意を表するため自治会生徒会は運動会・東高祭を中止した。

そしてこの年の予選会は、二日間行った。

『古代東高史』は、倉恒貞夫先生(山3)が京阪神支部会報に寄稿されたものを、京阪神支部と先生、山崎勝彦さん(山12)のご了解を頂いて、掲載しています。

会員随想

私の“舞いあがれ!”



高木 盾彦 (山脈12回)



朝の連続テレビ小説でパイロット養成が放映され懐かしく見てましたが、私も「空」に憧れ夢が実現した一人です。

小さい頃、湖山の母の実家に行く途中、畑に航空機!? たぶん今思うと練習機の残骸があり、その風防ガラスの破片を擦ると甘い匂いがし、私の宝物でした。模型エンジンのグロー燃料の匂いも私にとっては良い匂いでした。そして、ゴム動力模型飛行機の県大会優勝も!!

朝鮮戦争時、京都丹後の峰山と美保を結ぶ航空路が鳥取近くの上空にあり、小学生低学年でしたが多くの飛行機が飛んでいるのを見上げていました。

こんな環境から何となく飛行機に憧れがあり大学進学時、航空自衛隊に航空学生というパイロットへの道があると知りましたが、戦争で父を亡くし母と二人でしたから経済的負担を掛けたくないと考え、また、自衛隊パイロットは危険な仕事と猛反対を受け大学へ進学しました。進学後も「パイロットへの道」が諦めきれずに民間パイロットにと航空大学校を受験、幸いにも合格することができ、卒業後は夢が叶い国際線を飛行する会社に入社することができました。入社後は若かったこともあり、国際線パイロットとして“日の丸”を背負って世界の空を飛んでいたように思います。その後、デスクワークを含め地上職として後進育成の教官職として新機種導入、外国人採用、特別便飛行等に就いてきました。

<思い出から一言>

当時の航空機は四人で飛んでました。GPSやコンピューターの進歩で航空士、航空機関士が要らなくなり、今の航空機の新機種は「機長と副操縦士」の二人で飛んでます。時代が進むと、その内「機長」一人に成るかも知れません。

お知らせ

コロナ禍で3年間実施できなかった各地の同窓会のイベントが、アフターコロナということで本年は以下の通り開催が予定されています。母校百周年のお祝いも含めて『百一年目』を盛り上げたいものです。

◆東京東雲会総会(3月11日幹事会で決定)

東京東雲会 令和5年度総会

日時：2023年7月1日(土) 12:00開会

場所：法曹会館(東京都千代田区霞が関1-1-1)

会費：一般5,000円/学生1,000円

お子様連れ、介護者連れの参加は可能ですので事前にお知らせください。また、未就学児については会費を頂戴しません。講演会・音楽イベント・福引会を企画しておりますので皆様のご参加をお願いします。

詳細は、会員の皆様へは5月末に文書でお知らせするほか、東京東雲会HP・facebookでもお知らせ致します。

◆東雲会本部からのお知らせ

❖鳥取東高の学校長交代

此春の県の人事異動があり、中島 靖雄(なかしま やすお)先生が離任され、原田 晋一(はらだ しんいち)先生が着任されました。

❖東雲会本部総会

日時：令和5年8月5日(土)

役員会：午後3時から

定期総会：午後3時30分から 懇親会：検討中

会場：白兔会館(鳥取市末広温泉町556)

当日鳥取へ帰省等でお越しの際は、是非出席されたくお待ちしております。会費等詳細が決まりましたら以下HPにてお知らせいたします。

◎東雲会本部のホームページ

<https://sites.google.com/view/torie-shinonome>

◆京阪神東雲会からのお知らせ

❖京阪神東雲会令和5年度総会・懇親会

コロナ禍のために総会の中止が続きましたが、以下の通り4年ぶりに開催することになりました。

日時：令和5年11月18日(土)

場所：大阪キャッスルホテル 6階

受付：12時から

総会：12時30分～13時

懇親会：13時～15時30分

当日、関西に来られる方々があれば、同期の方々とのテーブルを用意しますのでお待ちしています。

具体的な詳細は、9月末ごろ次のサイトでお知らせします。

◎京阪神東雲会のホームページ

<https://keihanshin-shinonome.club/index.htm>

◎京阪神東雲会 (facebook)

<https://www.facebook.com/groups/tottorihigashi>

【編集後記】

第6号は、3年振りの開催となった「東京東雲会総会と懇親会」の楽しい様子の写真や、出席いただいた幅広い世代の参加者からの寄稿を掲載しました。寄稿いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。また、昨年度の鳥取での「母校百周年記念式典」の様子も掲載しています。東高校歌“廻る世紀の歯車と栄えゆくなり東高♪”…次代の新世紀も東高が益々発展していくことを願いつつ、本年も7月1日(土)に総会と懇親会を開催します。是非とも多くの会員の皆さまの出席をお待ちしています。また、やむなく欠席される方も返信ハガキに近況を記載していただきたくお願いします。

(山脈22回 細谷 和夫)

[東京東雲会事務局]

〒182-0016

東京都調布市佐須町4-27-12 メゾン佐須202 細井様方
東京東雲会

電話：090-3087-1394 (幹事長 奥田)

Mail：tokyo.shinonomekai@gmail.com

[公式ホームページ]

<https://tokyo-shinonomekai.jimdo.com/>